

第7回 嘉麻市まち・ひと・しごと創生推進会議 会議録

- 1 会議等の名称 第7回嘉麻市まち・ひと・しごと創生推進会議
- 2 開催日時 令和6年12月26日(木) 10:30～
- 3 開催場所 嘉麻市役所本庁舎5階 5A会議室
- 4 公開または非公開の別 公開
- 5 出席者

(1) 出席委員

元 近畿大学産業理工学部 学部長	井原 徹
嘉麻市観光まちづくり協会	有田 芳行
株式会社福岡銀行	林田 史朗
自治労嘉麻市職員労働組合	新原 直子
九州テレ・コミュニケーションズ (株式会社ケーブルステーション福岡)	柿森 悦良
J Aふくおか嘉穂	平畑 英幸
一般公募	森 美佐子
一般公募	穴井 里佳

(2) 欠席委員

嘉麻市誘致企業振興会	中川 辰二
嘉麻市 PTA 連合会	大里 健
嘉麻・桂川保育協会	溝口 恭子
嘉麻市行政区長連合会	富崎 静江

(3) 執行機関

企画財政課 課長	大村 輝生	課長補佐	森 康弘
	係長 藤内 優	主任	香田 潤佑

- 6 傍聴人数 0人

- 7 議題及び審議の主な内容

- 開会
- 嘉麻市人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略(素案)について
- その他

- 8 配布資料

- (1) 第7回 嘉麻市まち・ひと・しごと創生推進会議 レジюме
- (2) 嘉麻市人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略(素案)
- (3) 嘉麻市人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略変更点
- (4) 嘉麻市まち・ひと・しごと創生(地方創生)取組事業一覧表

- 9 審議の内容

- 嘉麻市人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略(素案)について
嘉麻市人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略(素案)について説明。

基本的な考え方については現計画である嘉麻市人口ビジョン・第2期嘉麻市総合戦略を基本とし、令和2年度国勢調査の結果、国の長期ビジョン・デジタル田園都市国家構想総合戦略、現総合戦略の評価検証結果、まち・ひと・しごと創生に関する市民意向調査結果を考慮し、次期計画を策定。

最初に嘉麻市人口ビジョンの主な変更点について説明（以下は内容）。

- ・位置づけ P1 ➡ 国の計画策定、国勢調査の実施などを考慮し内容を変更
- ・対象期間 P2 ➡ 国の計画策定などを考慮し内容を変更
- ・現状分析 P2～21 ➡ 最新の国勢調査等をもとに分析を実施し内容を変更

※現在の人口は34,000人程度。令和32年には18,118人まで減少すると予測。人口減少の要因として、自然増減、社会増減のいずれも減少傾向にあることが挙げられる。

特に社会減の影響が大きく、なかでも男女ともに15歳から39歳の転出が多く、将来の人口推計にも大きな影響を及ぼしている。そのため、この世代の転出抑制が大きな課題となっている。

- ・将来人口の推計と分析 P22～24 ➡ 最新の国勢調査等をもとに分析を実施し内容を変更
- ・人口の将来展望 P25～39 ➡ 市民意向調査の意見を反映し内容を変更、目指すべき方向性、将来展望を整理

※青のグラフが現計画（第2期）作成時の推計予測、赤のグラフが現在の予測、現計画の取組効果として2千人程度確保、各取組みにより引き続き17,000人を目指す。

次にデジタル田園都市構想総合戦略の主な変更点について説明、

- ・位置づけ P40

- (1) 目的 ➡ 国の計画や計画期間などを考慮し内容を変更
- (2) 位置づけ ➡ 嘉麻市総合計画の計画期間などを考慮し内容を変更
- (3) 計画期間 ➡ 次期計画の計画期間を考慮し内容を変更
- (4) 評価・検証 ➡ 計画名称、課名変更などを考慮し内容を変更

- ・基本方針 P41～45

- (1) 国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の概要 ➡ 国の計画を考慮し内容を変更
- (2) 「嘉麻市総合戦略（嘉麻市デジタル田園都市構想総合戦略）」の基本的な考え方

①人口に関する考え方を整理

人口ビジョンで示した将来の展望「2065（令和47）年に総人口17,033人を維持・確保することを旨とする」を実現するため、計画期間後の出生者数を年間165人に向上させ、移動による社会減少を5年間に414人抑制することを旨とする。

②～⑥はデジタル推進の取組、ジェンダーギャップ解消の取組などの項目を追加し、未来技術の活用の項目を削除

- ⑦基本目標の数値目標を追加 ➡ 各基本項目ではなく、全体の目標に変更

※変更理由は、年度間の把握ができにくく、必ずしも目標とする人口維持に直結しないため

- ・『「嘉麻市で働きたい」を叶える、安定した雇用を生み出す』の具体的施策 P46～47

- (1) 基本的な考え方 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更
- (2) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更

※重要業績評価指標は変更なし、基準値、目標値は現況などを考慮し変更

・『「嘉麻市に行きたい！住みたい！」と思える魅力あるまちづくりを行う』の具体的施策 P48～49

- (1) 基本的な考え方 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更
- (2) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更

※重要業績評価指標を1カ所変更

施策2-③ 観光の活性化、ふるさと納税等を通じた関係人口の増加の重要業績評価指標について NFT を活用したふるさと納税返礼品の開発に変更

(NFT:「コピーすることができない唯一無二のデジタルアイテム」を指し、デジタルデータが本物であるか(その人が所有しているか)どうか証明できるもの)

※その他は基準値、目標値について現況などを考慮し変更

・『安心して結婚・出産・子育てすることができる、切れ目のない支援を行う』の具体的施策 P50～53

- (1) 基本的な考え方 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更
- (2) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更

※重要業績評価指標を1カ所変更

施策3-①を地域での子育て支援体制の充実へ変更し、重要業績評価指標について こどもの居場所づくり体制強化事業、地域の社会資源の調査の実施に変更

※その他は基準値、目標値について現況などを考慮し変更

・『誰もが住みやすい、安心・安全なまちをつくり、地域と地域を連携する』の具体的施策 P54～55

- (1) 基本的な考え方 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更
- (2) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標 ➡ 市の現況などを考慮し内容を変更

※重要業績評価指標は変更なし、基準値、目標値は現況などを考慮し変更

※全体的な変更点の詳細については別紙(3) 嘉麻市人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略変更点を参照

【主な質疑及び意見等】

質疑

・デジタル田園都市構想総合戦略の数値目標の内容を詳しく教えてほしい。

⇒ 純移動数については5年間の総数を抑制すること、出生数は年間165人を目指すことを目標としている。特に移動数においては、子育て世代となると親だけではなく子供も一緒に転出することになり全体辺の影響が大きいので、その部分への重点的な施策を実施していきたいと考えている。

・令和47(2065)年に17,000千人を目指す根拠についてはなにか教えてほしい。

⇒ 減少することは今後否めないが、何も対策をせずにいけば想定以上に人口減が進み、行政サー

ビスに大きな影響がでる。相対関係をみると17,000人が最低目標で、本来であれば目指さないといけない数字だと考えている。

・デジタル田園都市国家構想は市の方針として役に立つのか。

⇒ 国としては出生数増加や東京一極集中の是正、魅力的な地方の創生等の実現のためデジタルを活用するということを目指している。その分で国からの補助金もあり、市の課題解決のため、デジタルの要素を含んでいる。

・NFTの活用方法について教えてほしい。

⇒ 例えば市内施設において市内外の利用者と利用金額を分けている場合において、デジタル住民票をもっていれば市内利用者とみなし、料金が市内の方と同じにする等のサービスをするなど活用方法は多岐にわたる。

・出生数改善のデジタル化は何があるか。

⇒ カルテの電子化等が想定される。

・企業誘致が人口を増やすのに早いけど、待つのみで、こちらからの働きかけはあるか。

⇒ 市で土地整備を検討するなど、企業等へ市からの働きかけもある。また、企業誘致の担当からは重点促進地域に指定されるように動いていると聞いている。